

講義名	ドイツ語 / ドイツ語入門			授業形態	
担当教員	森田 一平	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
			ナンバリング・コード	FRL122	

主題と概要

ドイツ語入門/ドイツ語 で学んだドイツ語を復習しながら、様々な新しい場面での表現を学び、体験学習を進める。実際に使える身近な表現を学びながら文法規則を学んでいきます。ペアがグループワークがメインになります。ドイツ語の学習を通してランゲスクンデ（文化や習慣）も学んでいく。なおこの授業は教科書のLektion 4までを、すでにドイツ語入門/ドイツ語 で履修していることが履修の条件となります。

到達目標

大学生生活や余暇、毎日の日課や活動、友人、知人との約束などについて語り伝えることができる。会合や催しなどについて話し合つて決めることができる語彙・表現を習得する。過去の事柄について語るることができるようになる。

提出課題

授業の復習として、教科書付属のワークシートまたは、教科書の内容を補うワークシートを課題として出す。課題は平常点として評価するので必ず提出すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出物は添付ファイルでメールに添付して提出（メールテキスト本文に書かない）。添削して返却するので返却されたものは関連した箇所をチェックしておくこと。

評価の基準

平常点（授業中のグループワーク、発言など） 10%
 提出物 10%
 筆記試験（中間試験 - 20%、期末試験 - 30%） 50%
 口述試験 30%
 試験では基本的に表現・語彙、文法規則などについて授業中に学んだことの成果を問う。

履修にあたっての注意・助言他

教科書は必ず購入すること。この授業で使う教科書は2024年の新版なので間違つて違う本を買わないように(書名とISBNを良く確認)。

教科書	.ペーシック版 自己表現のためのドイツ語<ノイズ>	板山真由美 塩路ウルズラ 本河裕子 吉満たか子	三修社	2800	9784384123104
-----	---------------------------	-------------------------	-----	------	---------------

参考文献					

その他	独和辞典は必ず持つておくように。例えば アクセス独和辞典 三修社
-----	----------------------------------

授業計画

1. Lektion 5 言葉、余暇について語る。語彙・文法学習 助動詞「～したい」、「～しなければならない」
2. Lektion 5 義務、禁止、許可などの表現。文法学習 所有代名詞(所有冠詞)
3. Lektion 5 語法の助動詞(まとめ) 変化と意味
4. Lektion 6 1) 宿題の予定、日課を語る
6. Lektion 6 物や事柄について感想を言う、評価する
7. Lektion 6 ドイツの学校制度、文法学習 動詞(分離動詞)、人称代名詞
8. 中間試験
9. Lektion 7 待ち合わせ、一緒に何かする 前置詞(場所の表現「～で」)
10. Lektion 7 一緒に何か計画する 名詞 複数形
11. Lektion 8 過去にあったこと、したことを語る 文法学習 現在完了
12. Lektion 8 過去にあったこと、したことを語る 文法学習 現在完了 (続き)
13. Lektion 8 文法学習 動詞 過去分詞、過去形
14. 期末試験 筆記試験+口述試験(第一グループ)
15. 期末試験 口述試験(第二グループ)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L.型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を重視します。毎回2時間程度の復習が必要です。教科書の課題問題などを課題として出します。付属の音声教材を聴くだけでもドイツ語の上達につながります。新出単語を書き出すなど各自で自分に合ったいるな方法を取りましよう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ドイツは経済的、政治的にEU・ヨーロッパの最も重要な国の一つです。ドイツ語学習を通じて、ヨーロッパ社会への理解を深め、国際的な視点を持つことに繋がります。他者との会話を通じて実社会で必要なコミュニケーション能力、対人能力を培う良い機会とします。これらの能力は商学部生に求められる言葉の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立ちます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ペアワーク、グループワークを用い、発音、語彙、表現、文法などを教師がチェックします。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回出席が前提ですが、単位取得には2/3以上の出席が必要です。欠席1/3未満であっても連続して欠席しないように。発音にしろ表現や語彙、文法に日々の積み重ねが重要です。